

教科(科目)	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年	1学年
使用教科書	大修館書店『新高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『図説新高等保健』				

1 グラデュエーション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる人間に育てる。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい人間に育てる。
カリキュラム・ポリシー	①1・2学年では全員が共通の科目を学び、広く基礎的な知識・技能を身につけます。 ②3学年では選択科目を多く設置し、個々の興味・関心を進路目標に合わせ科目を選択し学びます。 ③授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの授業、ICTを積極的に活用しわかりやすい授業を実践します。 ④長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」のもと、地域の大学、企業、行政と連携し、地域資源を活用した生徒主体の探究活動を実践します。 ⑤学校行事や部活動では、安全安心な環境を整備し、生徒の主体的な活動を支援します。

2 学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
--

3 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて 各領域の「技術（技）の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。 ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて 体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決に重点を置く。 ③学びに向かう力の涵養に向けて 運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・実技テストの分析 ・ルール筆記テストの分析 ・授業中の技能評価、運動動作の観察 ・体育理論のレポート等の内容確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・記録や学習カード等の記入内容の確認 ・チームや自己の動きの分析や、良い点や修正点への指摘の観察 ・練習やゲーム場面での個人、チームの課題解決、危険を回避するための活動計画実施の観察 ・電子レポートの内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業への参加、取組みの観察 ・服装や用具の準備状況の観察 ・練習やゲーム場面での個人、チームの課題解決、危険を回避するための活動計画実施の観察 ・学習カード、課題、電子レポートの取組みの確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業 時数	領域名	教材	学習活動(指導内容)	評価方法
4	体づくり運動	10	体づくり運動	教科書 副教材	- 心と体は互いに影響し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流する手軽な運動や律動的な運動を行う。 - 自他で課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方を工夫する。 - 自主的に取り組み、互いに助け合い健康、安全を確保する	運動動作の観察 取り組みの観察
5 6 7	陸上競技	12	陸上競技	教科書 副教材	長距離走 - 自己に適したペースを維持し、一定の距離を通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。 - その日の体調や気候、気温、時間帯に応じ、自分で考えながら自己管理し取り組む。	実技テスト 筆記テスト 電子レポート 運動動作の観察 取り組みの観察

					ハードル走 ・ハードルを低く素早く越えながらインターバルをリズムカルにスピードを維持し走る。 ・引っかける、転ぶ恐怖心から克服するために、インターバルのリズムとハードリングの創意工夫。ルールやマナーの確認（安全面への配慮）	
7	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	3	体育理論	教科書 副教材	1 スポーツの発祥と成立 2 スポーツ文化の発展と現代社会 3 オリンピック・パラリンピックと国際社会 ・プリントを活用しながら活動する。	筆記テスト 電子レポート 取り組みの観察
7 8 9 10	選択Ⅰ期	17	球技（ゴール型・ネット型） 1 種目選択	教科書 副教材	サッカー ・ドリブル、パス、シュートの基礎的なボールコントロールを習得する。 ・状況に応じたボール操作と連携した動きによって攻防を展開することを目指す活動を行う。 テニス ・ラケット、ボールの特性を理解し基礎的なボールコントロールを習得する。 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって攻防を展開することを目指す活動を行う。 卓球 ・ラケット、ボールの特性を理解し基礎的なボールコントロールを習得する。 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって攻防を展開することを目指す活動を行う。	実技テスト 筆記テスト 電子レポート 運動動作の観察 取り組みの観察
10 11	選択Ⅱ期	17	球技（ゴール型・ネット型） 1 種目選択	教科書 副教材	バスケットボール ・ドリブル、パス、シュートの基礎的なボールコントロールを習得する。 ・集団的技能の習得やゲームを行うことで、仲間と連携して攻防する。 バレーボール ・パス、サーブ、スパイクの基礎的なボールコントロールを習得する。 ・状況に応じたボール操作と連携した動きによって攻防を展開することを目指す活動を行う。 バドミントン ・ラケット、シャトルの特性を理解し基礎的なシャトルコントロールを習得する。	実技テスト 筆記テスト 電子レポート 運動動作の観察 取り組みの観察

					・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって攻防を展開することを目指す活動を行う。	
11 12	選択Ⅲ期	17	球技（ゴール型・ネット型） 1 種目選択 選択Ⅱ期で選択した種目以外を選択	教科書 副教材	バスケットボール バレーボール バドミントン 選択Ⅱ期と同様	実技テスト 筆記テスト 電子レポート 運動動作の観察 取り組みの観察
1	スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	3	体育理論	教科書 副教材	4 スポーツの経済効果とスポーツ産業 5 スポーツに求められる高潔さ 6 持続可能性からみたスポーツと環境 ・プリントを活用しながら活動する。	筆記テスト 電子レポート 取り組みの観察
1 2 3	選択Ⅳ期	17	球技（ゴール型・ネット型） 1 種目選択 選択Ⅱ期、選択Ⅲ期で選択した種目以外を選択	教科書 副教材	バスケットボール バレーボール バドミントン 選択Ⅱ期と同様	実技テスト 筆記テスト 電子レポート 運動動作の観察 取り組みの観察

計96時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- (1) 種目ごとに実技テスト、筆記テストを実施し、学習カードなど課題を出す。
- (2) 授業を見学する際は、見学用紙に必要事項を記入し、提出。見学者の授業評価となる。
- (3) 特別な事情により長期間授業を行うことができない場合も見学者同様。また、別途に課題等を与える場合もある。課題やレポート等を作成し提出してもらう。

8 担当者からの一言

「生きる力」の一つである「自分で課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決する能力」が育まれることを期待します。また、毎時間実施する、向陵体操、補強運動を通じ、基礎体力の向上に励みましょう。

(担当：稲泉誠治)